



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 105号 2010.7.22 発行 社会政策研究所

=====

支援の谷間にスーポリと落ちてしまう知的障害者・発達障害者。昨日今日の新聞記事からお届けします。

記事の中身もさることながら、一般の読者に向けて、療育手帳やアスペルガー症候群などのようにミニ解説が紙面に掲載されていることにも注目してほしい。しかしこのような解説はきちんと理解が届かないと、「ホームレス」＝「知的障害者」や、「アスペルガー」＝「犯罪」のような短絡的な思考を作り出しやすいことにも目を向けてほしい。【kobi】

**支援が届かぬ知的障害者 追い込まれ 路上生活 北九州市の支援組織が警鐘  
見過ごし？ 4割に障害 潜在化なくす体制必要**

西日本新聞 2010年7月21日

本人も周囲も知的障害者と分からないまま、行政の支援網から滑り落ちて、結果的に路上生活に追い込まれている人たちがいる。支援組織の調査から、高率での存在が浮き彫りになっている中、その実態を取材した。(竹次稔)

路上生活者を支援する北九州市の「ホームレス自立支援センター北九州」を退所した路上生活者のうち4割強は、「知的障害者」と同市が判定している。

同センターに入所した後、勧めに応じて福祉サービスなどの支援が受けられる「療育手帳」を取得した人の分析から分かった。2009年度は113人のうち49人(43.3%)が該当。07年度41.1%、08年度43.0%と3年連続で40%を超えた。

調査は、同センターの運営委託を受けるNPO法人・北九州ホームレス支援機構が、(1)「入所の抱負」がうまく書けない(2)自主的な求職活動が困難(3)退所後も、計画的に生活費を使わず再び路上生活に戻るなどの事例に着目し、「知的障害者が潜在化しているのではないか」と想定して実施した。

調査からは、8割程度は知能指数(IQ)51～75と、軽度の知的障害であることも判明。日々のコミュニケーションには問題がなく、就労できていた人も多いことから、障害が長年見過ごされてきた可能性が指摘されている。

同支援機構は、06年度から、独自の検査や成長過程の聞き取りなども踏まえ、本人の意向を考慮しながら手帳取得を促す取り組みを本格化。取得で公共交通機関利用時の負担軽減や、さまざまな福祉サービスが受けられるため、「生活の安定に役立つ」として勧めている。

同支援機構の山田耕司部長は「北九州市だけの問題ではないはずだ。路上生活者イコール怠け者という決めつけは間違い。路上生活者に対しては、就労支援だけでなく、必要な人に本来受けられる社会的支援が提供できるようにする体制整備が求められている」と訴えている。

### 退職・退寮させられた男性 契機は経営者の暴力 療育手帳が自立に光

北九州市のアパートで1人暮らしの男性（56）は、2008年末に軽度の知的障害と判定され、療育手帳を取得した。同年9月に入所したホームレス自立支援センター北九州（北九州市）に勤められた。

男性は、同年5月ごろ、右目の視力を失った。当時働いていた道路照明会社の経営者から理不尽な暴力を受けたのだ。

「八つ当たりだったのかもしれない」

けがをして入院。退院後に仕事がほしくて経営者宅を訪ねたが「おまえはいらん」と追いつめられた。「事件にして会社の経営に影響すれば、家族がいる同僚に迷惑がかかるかもしれない」と、警察には届けなかった。会社の寮から追いつめられ、路上生活者となった。「過去の話は本当はしたくない。思い出すから」。そう繰り返した男性。同センターとの出会いが自殺を踏みとどまらせた。

「私は産業医大で目を手術しました、いま通院しています、早くメガネをつくり、一日も早く自立し、がんばっていきたいと思います」

センターに入所する際に提出する「抱負」には、こう記しただけ。それ以上書けなかったのか、書けなかったのか。その後、センター職員に促されて行った知能検査の問題は「分からなかった」。取材を受けても、過去のできごとを時系列になかなか思い出すことができなかった。

療育手帳の取得は当初、「障害者と呼ばれたくない」とためらった。福祉サービスを受けられると説明され、徐々に気持ちが変わった。09年3月末の退所後も、金銭管理はセンターに任せている。

一般企業への再就職はあきらめたが、今、市内にある障害者向けの作業所に通い、積み木を手づくりしている。失明した右目を抱えつつも、前に向かって生きていけそうな小さな光が見え始めた。最近、市内の販売店でその積み木を喜んで購入する家族連れを見た。注文も絶えないという。

「暗い過去は捨てようと思う」

男性は、取材が終わると時計をみながら、急いで作業所へと向かった。

#### <療育手帳>

知能指数（IQ）をみる標準化された知能検査で、一定数値より低いことなどを判断材料に「知的障害」と自治体が判定した障害者に配られる手帳。おおむね18歳までに障害があらわれ、日常生活に支障が出ている場合に、福祉サービスの支援や公共料金の減額などの措置が受けられる。自治体ごとに詳細な区分は異なるが、主にIQによって障害を重度、中度、軽度に分類する。

#### 冤罪の発達障害者 国家賠償を請求

中日新聞 2010年7月22日

駅構内で女性を盗撮したとして起訴され、控訴審で無罪が確定したアスペルガー症候群の横浜市の二十代男性が今年十三日、国と東京都を相手取り、計千百万円の国家賠償を求める訴えを横浜地裁に起こした。冤罪（えんざい）事件はどうして起きたのか？ 発達障害と司法をめぐる問題を考えた。（安藤明夫）

男性は二〇〇八年六月、東京都内の地下鉄駅構内で、女性のスカート内に携帯電話のカメラを差し入れたとして、警視庁で任意の取り調べを受け、同庁と東京地検が自白調書を作成。一審判決では、都迷惑防止条例違反で罰金三十万円とされたが、二審の東京高裁は自白調書の信用性を否定。無罪を言い渡し、今年二月に確定した。

一審の判決直前に男性はアスペルガー症候群と診断され、受け答えが苦手で混乱状態に

陥りやすいなどの特徴が明らかになった。

十三日の会見で、原告側の野呂芳子弁護士は、男性が容疑をかけられた経緯を次のように説明した。

**【発端】**携帯電話に内蔵してあるロボットの画像を見ていたところ、前にいた女性客に激しい勢いでとがめられ、なぜ怒られたのか分からないままパニック状態になり「すみません」と言った。その言葉がどんな結果を及ぼすか想像できなかった。

**【誤解】**駅員が男性の携帯電話を調べ「画像はどうしたんだ」と尋ねたため、ロボットの画像のことを聞かれたと思い「消しました」と答えた。通報で駆けつけた警官に対し、駅員は「男性が盗撮を認め、その画像を消去した」と説明をした。アスペルガー症候群の人は、相手の意図を酌み取ることが苦手。

**【取り調べ】**「やっていない」と言っても全く取り合ってもらえず、「いいかげんにしろ」などと怒鳴られたことで、強い不安とあきらめの気持ちを抱いた。警察官が調書を読み上げ「ここにサインしてください」と言われ、しなくてはならないと思った。

高裁は警視庁と東京地検の調書が不自然に食い違い「捜査官が誘導したか作文した疑いがぬぐえない」として無罪を言い渡した。

野呂弁護士は「事実関係の裏付けをすれば、簡単に容疑が晴れたケース。障害の問題に限らず、思い込み・自白偏重捜査の違法性を問いたい」と強調した。男性は、今も地下鉄に乗れないなど、精神的なショックが大きいという。

発達障害を研究する辻井正次・中京大教授は「発達障害の人は、相手の意図を読み取ることが苦手。自分の言っていないことでも、言い含められてしまったり、強い口調に対して、意味が分からなくても『ごめんなさい』と言ってしまうりするリスクがある」と指摘。「警察の取り調べでは、簡易に知的障害を把握できるような手法を取り入れることが必要。発達障害の可能性がある場合には、十分に配慮するなど、今後、十分な取り組みが求められる」と話す。

その一方で、発達障害の影響によって行動の善悪などの理解が不十分な場合もあり、犯罪の被害や冤罪の防止とともに、触法行為への対応も課題になっているという。

辻井教授が客員教授を務める浜松市の浜松医大子どもこころの発達研究センターは四月に触法少年のための相談窓口を開設。非行全般を対象にしながらも、特に発達障害・知的障害のある子どもたちと家族への支援を重視している。

家族や警察、弁護士、保護司などからの相談申し込みを、電子メール=cmd.soudan.2010@gmail.com=で受け付ける。本人と家族や支援者が一緒に来室できることが条件。辻井教授ら専門家が対応する。

同センターの林陽子特任助教は「再犯防止のためのプログラム開発などに役立てていきたい」と話す。

<アスペルガー症候群> 知的障害も言葉の遅れもないが、社会性の欠如、コミュニケーション障害、興味の偏りなどの問題を持つ。脳の機能障害による「広汎（こうはん）性発達障害」の一つ。各都道府県の発達障害者支援センターが相談窓口になっている。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック

